

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783



「にいがた和牛」の安全・安心をアピール!

(平成23年11月24日、関連記事5ページ)

目次

- ◆〈特集〉肉用牛経営の安定的継続のために！
～ 経営支援対策、価格安定対策及び
技術指導対策を推進しています ～
- 1 原発事故に伴うセシウム汚染に対する
肉用牛経営安定対策事業の実施状況 ……(2)
- 2 新マルキン事業の補填金月払い期間
を12月販売分まで延長 ……(2)
- 3 肉用牛経営の技術指導実施状況
～にいがた和牛増頭に向けて～ ……(3)
- ◆お悔やみ ……(3)
- ◆平成23年度第4回理事会を開催 ……(4)
- ◆にいがた和牛IN東京キャンペーンを
実施しました ……(4)
- ◆畜産共進会への褒賞授与 ……(4)
- ◆安全・安心、うまい! 「にいがた和牛」を食べよう
～にいがた和牛消費宣伝拡大大会開催 ……(5)
- ◆肥育名人の時田 正氏が最優秀賞の栄冠!
「第56回新潟県肥育牛求評共励会」開催 ……(5)
- ◆家畜防疫互助基金の積み戻しが完了!
～万一に備える互助制度は維持・継続されます～ ……(6)
- ◆新しい飼養衛生管理基準を実践しよう!
一家畜衛生講習会を開催一 ……(6)
- ◆声のコーナー ……(7)
「気持ちの変化」
酪農経営：上越市 田中詠一
「常に向上を目指して」
養豚経営：津南町 大関 惇
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより ……(8)
村上市：(有)マスエイ農産 高橋一栄
- ◆畜産物市況 ……(8)
- ◆編集後記 ……(8)

〈特集〉肉用牛経営の安定的継続のために！

～ 経営支援対策、価格安定対策及び技術指導対策を推進しています ～

1 原発事故に伴うセシウム汚染に対する肉用牛経営安定対策事業の実施状況

東京電力福島第一原子力発電所事故のセシウム汚染により、肥育牛の出荷の停止や自粛、枝肉価格の低下から資金繰りが悪化し、経営の継続が困難となっている肉用牛肥育経営体に対し、つなぎ資金として無利息の緊急支援金、廃棄支援金及び価格低下支援金を交付する「肉用牛肥育経営緊急支援事業：（独）農畜産業振興機構補助事業」を実施しており、既に緊急支援金を321,250千円交付しました。

更に、価格低下支援金（9月、10月出荷分まで）56,440千円を12月末日までに交付する予定です。

(1) 肥育農家緊急対策事業

緊急支援金（事業対象者が飼養している事業対象牛1頭当たり5万円）を10月21日までに交付しました。

（単位：人、頭、円）

区分	交付者数	交付頭数	交付単価	交付額
肉専用種		1,676	50,000	83,800,000
交雑種		2,994		149,700,000
乳用種		1,755		87,750,000
合計	54	6,425		321,250,000

(2) 肥育牛出荷対策事業

8月29日～12月31日までに出荷される肥育牛を対象とし次の支援金を月ごとに交付します。

ア 事業対象牛の放射性物質の検査結果が、暫定規制値を上回った場合は、「廃棄支援金」を交付します。（現在までに廃棄支援金交付対象牛の発生はない。）

イ 月の平均枝肉価格が基準枝肉価格を下回った場合は、当該月に販売した事業対象牛に「価格低下支援金」を交付します。

○ 9月、10月分交付額

（単位：人、頭、円）

区分	交付者数	交付頭数	交付額
肉専用種		6	240,000
交雑種		213	29,530,000
乳用種		258	24,950,000
合計	12	477	54,720,000

（注）交付単価は、出荷牛の種別、枝肉格付により異なる。

2 新マルキン事業の補填金月払い期間を12月販売分まで延長

当協会では、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性セシウム問題による、肉用牛肥育経営の収益性悪化に対処するための緊急対応策として、肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン事業）の第2四半期（7月から9月）販売分についての補填金交付を、従来の四半期ごとの交付を変更して毎月交付してまいりましたが、いまだに経営環境の改善が認められないことなどを考慮し、第3四半期（10月から12月）販売分についても引き続き毎月交付を行います。

これまでと同様に、迅速で正確な補填金の交付に努めてまいりますが、補填金の交付対象漏れなどのトラブルを防止するために、販売頭数の確実な把握及び販売報告書提出期限の厳守について特段のご協力をお願いします。

なお、10月販売分はすでに12月21日に補填金を交付済みですが、11月販売分以降のスケジュールは次のとおりです。

区分	11月販売分	12月販売分
販売報告書提出期限	12月16日	1月20日頃
単価の公表	1月上旬	2月上旬
補填金交付時期	1月23日まで	2月22日まで

（注）補填金は表に記載した日までに交付する予定ですが、単価の公表日等の関係で若干遅れる場合があります。

また、当該月の平均粗収益が平均生産費を上回り、独立行政法人農畜産業振興機構理事長から肥育牛補填金単価が公表されない場合は、補填金の交付はありません。

3 肉用牛経営の技術指導実施状況 ～にいがた和牛増頭に向けて～

当協会では、生産性の高い畜産経営体を育成することを目的に、畜産経営技術高度化推進事業をはじめとした経営指導業務を実施しています。平成23年度の畜産経営技術高度化指導では、にいがた和牛の増頭を図るという新潟県の方針に則り、診断対象経営を和牛飼養経営に特化し、にいがた和牛生産者の技術向上、経営改善に向けた指導を行っています。

また、にいがた和牛推進協議会では、本年度から新たににいがた和牛肥育名人マンツーマン指導事業を開始し、肥育名人の優れた肥育技術の普及を図り、枝肉品質向上によるにいがた和牛増頭に向けた取り組みを実施しています。

これら2つの事業の実施状況は次のとおりです。

○平成23年度畜産経営技術高度化推進事業

酪農、肉用牛、養豚経営で合計38戸の指導を実施していますが、うち肉用牛経営が18戸と指導戸数のほぼ半数を占め、6月から表1の指導区分に沿って順次実施しています。

表1 平成23年度畜産経営技術支援指導実施状況

区 分	和牛繁殖経営	和牛肥育経営
緊急課題対応型指導	1戸	2戸
総合指導	-	3戸
ワンポイント指導	1戸	5戸
フォローアップ指導	1戸	5戸
計	3戸	15戸

特に、緊急課題対応型指導は、配合飼料価格の高止まりに対応して多様な工夫や対策を行い、生産性の向上に努めている経営について、その取り組み内容と成果を調査し、広く普及することを目的に実施しています。

平成22年度は和牛繁殖経営1戸、和牛肥育経営2戸を対象に実施しましたので、その内容を紹介します。表2に示すとおり、繁殖経営、肥育経営とも飼養畜1頭当たり年間所得額が、他の診断区分で実施した経営の平均所得額を大きく上回る結果となり、生産性向上に取り組んでいる経営の経営改善効果が所得向上につながっていることがわかります。

これらの経営が実践している生産性向上対策の一例は表3に示したとおりで、当協会では毎年冊子を作成しインターネットを通じて普及に努めているほか、経営指導での活用を図っています。

表2 飼養畜1頭当たり年間所得額

区 分	緊急課題対応型 指導対象経営所得額	他の診断区分の 平均所得額
繁殖牛1頭当たり	170,520円	52,153円
肥育牛1頭当たり	117,092円	39,996円

表3 生産性向上対策例

生産性向上事項	対策手法と効果
分娩間隔の短縮	繁殖牛の観察を強化し、発情発見率を高めて適期授精に努め、分娩間隔が11.6ヵ月と1年1産を達成した。
増体量の向上	肥育前期に嗜好性の高いTMRを給与することで、粗飼料を確実に摂取させて腹づくりを強化し、1日当たり増体量が0.82kgに増加した。
粗飼料の生産コストの低減	地域農家との作業機の共同利用により、生産コストを23円/kgと購入乾草の半額程度で確保できた。

○にいがた和牛肥育名人マンツーマン指導事業

本事業は、にいがた和牛推進協議会が認定したにいがた和牛肥育名人が肥育技術向上を目指している和牛肥育経営の牛舎に出向き、現場での技術指導を行うことにより、指導対象経営が抱えている課題の解消と肥育技術の向上により、にいがた和牛の増頭を図ることを目的としたものです。現在、4戸の指導対象経営を選定し、それぞれに1名ずつ肥育名人を派遣して技術指導を行っています。実施した指導対象経営からは、「優秀な生産者の話を聞ける良い機会だった」「疑問や課題に対しての対処法を教えてください勉強になった」等の感想が聞かれました。

お悔やみ

今年、当協会に統合前の(社)新潟県家畜畜産物衛生指導協会の専務理事を務められたお二人の方が亡くられました。

故・谷 久榮様 (11月26日ご逝去、享年86歳)

昭和57～62年度の6年間在職

故・安原敏治様 (3月10日ご逝去、享年81歳)

昭和63～平成3年度の4年間在職

両氏は、家畜自衛防疫事業等を通じて本県の畜産振興に多大な貢献をされました。そのご功績に敬意を表しますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成23年度第4回理事会を開催

平成23年度第4回理事会を、去る12月13日午後新潟県自治会館会議室において開催しました。

理事10名、監事2名の出席により理事会は成立、今井会長は、開会あいさつで「原発事故のセシウム問題で肉用牛経営の継続が困難に陥っていること、これに対する緊急支援事業の実施等、当協会の対応」について述べ、また、「TPPに関する状況及び畜産業界に与える影響と今後の対応」について考えを述べました。

なお、議案審議では次の7議題を上程し、慎重審議の結果、いずれも原案どおり決議いただきました。

- 第1号議案 平成23年度事業計画の変更及び変更に伴う補正予算について
- 第2号議案 平成23年度事業進捗状況並びに収支見通しについて
- 第3号議案 平成24年度事業計画及び収支予算の骨子について
- 第4号議案 平成24年度会費及び手数料の額について
- 第5号議案 理事の職務権限規程の一部改正について
- 第6号議案 肉用牛肥育経営安定特別対策事業業務方法書の一部改正について
- 第7号議案 肉用牛肥育経営緊急支援事業実施要領の一部改正について

“にいがた和牛IN東京キャンペーン”を実施しました。

首都圏における「にいがた和牛」の知名度の向上と消費拡大を図るため、首都圏の消費者を対象として11月1日～30日までの一か月間、キャンペーンを実施しました。

東京都内の「にいがた和牛取扱指定店」等にプレゼントキャンペーンの応募用紙を設置して応募を募ったところ、多数の方の応募をいただき抽選の結果、当選者80名様に「にいがた和牛」をプレゼントしました。

商標登録第5067369号



畜産共進会への褒賞授与

当協会では、県内の畜産振興に寄与するため、主に県一円又は市町村の範囲以上を参加地域とする畜産共進会等において、優れた成績を収めた方に対し、賞状及び副賞を交付しています。

平成23年4月から12月までに10ヶ所の共進会等で交付しました。結果は下記のとおりです。

賞状及び副賞を交付した共進会等 (開催日順、敬称略)

行事名	主催者	賞名	受賞者名	住所
第37回全佐渡ブラックアンドホワイトショウ	佐渡ホルスタイン改良同志会	最優秀賞	信田和彦	佐渡市
第18回JA佐渡和牛共進会	佐渡農業協同組合	優等賞	山登忠男	佐渡市
			小崎 汎	佐渡市
第36回津南町養豚組合肉豚枝肉共励会	津南町養豚組合	最優秀賞	瀧澤 学	中魚沼郡津南町
第17回新潟県養豚協会肉豚枝肉共励会	新潟県養豚協会	優秀賞	生越利男	十日町市
		優秀賞	横野正人	新発田市
		バブ枝肉賞	姿農場	十日町市
平成23年度新潟県子牛共進会	全国農業協同組合連合会新潟県本部	最優秀賞	松田牧場	新発田市
第11回十日町農業協同組合養豚枝肉共進会	十日町農業協同組合・養豚部会	最優秀賞	澤口養豚場	十日町市
		優秀賞	姿農場	十日町市
第56回新潟県肥育牛求評共励会	全国農業協同組合連合会新潟県本部	最優秀賞	時田 正	村上市
		優秀賞	高橋勝美	十日町市
			成田 元	村上市
平成23年度白根地域畜産振興協議会	白根地域畜産振興協議会	優秀賞	小林 勝	新潟市南区
第52回燕市養豚共進会	燕市	優良賞	中条 守	燕市
第40回中之島地域畜産共進会	中之島地域畜産振興協議会	最優秀賞	田口正一	長岡市

安全・安心、うまい!
「にいがた和牛」を食べよう…
 にいがた和牛消費宣伝拡大大会開催

11月24日新潟市のホテルにおいて、JA新潟中央会及びJA全農にいがた県本部主催、にいがた和牛推進協議会共催、当協会及び新潟県の後援による「にいがた和牛消費宣伝拡大大会」が開催されました。

大会は、消費者、肉用牛食肉流通業者及び関係団体等から約200名が参加しました。

主催者を代表して、JA新潟中央会の今井副会長(当協会の会長)が挨拶に立ち、「東京電力福島第一原子力発電所の事故によるセシウム汚染問題で牛肉消費が減退し、卸売価格が低迷している牛肉価格の回復を図るべく、県産牛肉を食べて畜産農家に元気を取り戻してもらうため大会を開催した。」と述べました。

続いて、肉用牛生産者を代表してJAにいがた岩船肉牛部会の成田部会長が挨拶し「生産者は、愛情こめて肉牛を一頭一頭育てている。また、新潟県産の牛肉は、全国に先駆け全頭検査を実施し、安全が確認されている。安心して食べてもらいたい。」と訴えました。

また、全農にいがた県本部の加藤畜産部長(にいがた和牛推進協議会幹事長)が、にいがた和牛の誕生から現状及び課題などの情勢報告を行いました。

大会に引き続き開催された「にいがた和牛を食べて励まそう懇談会」では、全農にいがた県本部の吉見県本部長(にいがた和牛推進協議会副会長)が「年末、年始に向けてぜひ県産牛肉をいっぱい食べましょう。」と開会の挨拶を行いました。

会場では、にいがた和牛ステーキや様々な料理が提供され、参加者はにいがた和牛の美味しさを堪能しました。



(挨拶をするJAにいがた岩船肉牛部会 成田部会長)

肥育名人の時田 正 氏(村上市)が
最優秀賞の栄冠
「第56回新潟県肥育牛求評共励会」開催

JA全農にいがた県本部主催の「第56回新潟県肥育牛求評共励会」が、10月17日から19日までの間、東京都中央卸売市場食肉市場を会場に開催されました。

にいがた和牛の一層の品質向上を図り、安全で安心な牛肉を県内外の消費者へ提供して認知度を高めるとともに、本県の肉用牛経営の安定に資することを目的とした本共励会に、当協会及びにいがた和牛推進協議会も後援し参加しました。

今回は、36頭が出品され、審査の結果、肥育名人の時田 正氏が最優秀賞を受賞されました。

当協会長賞は、最優秀賞、優秀賞1席及び優秀賞2席に授与しました。

審査結果(敬称略)

区分	氏名	出品牛	
		性別	素牛産地
最優秀賞	時田 正	去勢	山形県
優秀賞1席	高橋 勝美	雌	自家産
優秀賞2席	成田 元	雌	山形県
優秀賞3席	菅原 健一	去勢	秋田県

○ にいがた和牛推進協議会では、同共励会の最優秀賞又は優秀賞受賞の素牛が県内産である場合、その繁殖者を褒章しています。

このたびの共励会で、高橋勝美氏が自家産素牛でこれに該当したことから、12月6日開催の上越家畜市場において褒賞を行いました。



(セリを待つ出品牛)

家畜防疫互助基金の積戻しが完了！ ～ 万々に備える互助制度は維持・継続されます ～

昨年の宮崎県での口蹄疫発生は、地域全体に未曾有の大被害を与えましたが、家畜防疫互助基金の加入者に対しては、生産者積立金と（独）農畜産業振興機構（以下、機構と略す。）の支援（出資比率＝1：1）からなる基金から約51.5億円の経営支援互助金が交付されました。

これにより、口蹄疫発生時に造成されていた基金は使い果たし、不足額は機構からの立替での対応を余儀なくされました。

いっぽう、口蹄疫は、現在でも周辺国で発生があり、我が国への侵入リスクは依然として高いことから、今期事業の最後の年である本年度中の万一の発生に備えるため、生産者積立金の積戻しによる基金の回復を行うこととなりました。

経営環境の厳しい折、生産者から再度、積立いただくには、このような事情を理解いただくとともに、農業協同組合等の事務委託団体の協力が不可欠であり、積戻しに係る説明会を開催してご理解・ご協力をお願いしました。

おかげさまで、契約生産者からの積戻しは、下表のとおり、廃業者（牛39戸、豚8戸）を除くほとんどの皆様からご理解いただき、総額676万円余の積立金を期限の9月30日までに納入いただき、当協会から基金管理団体である（社）中央畜産会への納付を完了しました。積立てされた生産者は発生時には互助金交付対象となり、今期終了時点での積立金の残額は無事戻しされます。

なお、平成24年度からは来期（3年間）の事業がスタートしますが、基金規模の増大が検討され、生産者積立金の単価など新たな設定となる予定になっていますので、事業の仕組みが明らかになりましたらお知らせします。

積戻し後の加入状況

畜種	戸数	頭数
乳用牛	260（93%）	9,875
肉用牛	268（87%）	17,191
豚	98（65%）	142,108

注：（ ）内は県内飼養戸数に対する加入率

新しい飼養衛生管理基準を実践しよう！ — 家畜衛生講習会を開催 —

平成23年4月に家畜伝染病予防法が改正されたことに伴い、飼養衛生管理基準も大きく見直され、10月1日から施行されました。

この「新しい飼養衛生管理基準」について理解を深め普及を図るため、新潟県、公益社団法人新潟県獣医師会及び当協会の共催による家畜衛生講習会が10月21日、新潟県自治会館別館「コンベンションホールゆきつばき」で開催されました。当日の出席者は約140名と多数で、畜産農家等関係者の関心の高さが窺われました。

農林水産省消費・安全局動物衛生課課長補佐の山野淳一様から「家畜伝染病予防法改正を踏まえた飼養衛生管理基準等の見直しについて」と題する講演をいただき、このたびの改正の趣旨は、昨年の口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生を踏まえて「**家畜伝染病の発生予防**」、「**早期発見・通報**」及び「**迅速・的確な初動**」に重点を置いて防疫体制を強化するためであることが確認されました。

これに伴い、飼養衛生管理基準は、畜産農家が遵守すべき事項として畜種別に、より具体的に設定され、ポイントとしては、①**最新情報の確認**、②**衛生管理区域の設定と消毒の徹底**、③**家畜の健康観察と早期通報**、④**悪性伝染病の発生に備えた埋却などの準備**となっています。

畜産農家の皆様には、「この飼養衛生管理基準を自主的に日々実践していくことが結果として自分の経営面でも大きなメリットをもたらす」という意識で取り組みをお願いします。



多数の参加者で超満員となった家畜衛生講習会



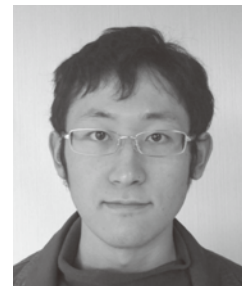
酪農経営

上越市吉川区梶
田中 詠一



養豚経営

津南町上郷宮野原
大関 惇



『気持ちの変化』

始めに、自己紹介をさせていただきます。

私は、地元の高校を卒業後、北海道にある酪農学園大学に進学しました。北海道に行った理由は、親が酪農を経営しており、将来、酪農に従事したいからということではなく、ただ「地元から離れたい」という安易な考えからでした。

しかし、大学へ入学してみると、酪農を「学び」に、全国から多くの学生が集まってきていることに驚いたことを今も鮮明に覚えています。同じ学科や部活の友人、あるいは先輩、後輩と学生生活を過ごし、色々な話をする中で、自分が「安易な考え」で大学に入学したことが、とても恥ずかしくなりました。

その後、2年生の夏には20日間の酪農家での実習があったのですが、この時の私は前搾りさえもできない状態で実習に臨みました。

しかし、実習期間中に私に与えられた作業は、乳牛の分娩介護、搾乳作業での前搾り、搾乳機の洗浄などでした。今になって思えば、研修先の酪農家が、最初は前搾りも出来なかった私に、自分の乳牛を乳房炎にさせてしまうかもしれない作業を担当させてもらったことにとても感謝しています。この実習では、酪農の厳しさを痛感するとともに、研修先の酪農家の優しさを感じることができ、非常に有意義なものとなりました。機会があれば、実習でお世話になった酪農家さんを訪れてみたいと思っています。

大学を卒業した後は実家に帰り、現在、酪農経営を行っている親の手伝いをしながら、地域の農業生産法人で、臨時職員として働いています。

一度、新潟県から離れ、県外で生活したから言えることかもしれませんが、「地元って好きだな」と心の中で思っています。

当面の酪農経営の課題は、乳質の改善と作業効率の向上であると考えており、それらの解決に向けて努力していきたいと思っています。

あとは、結婚できれば良いのですが……。いい人がいましたら是非、ご紹介をお願いします。

『常に向上を目指して』

農業を営むことを決心したのは、中学生の頃でした。当時の動機としては、自分の意思、農業への関心・意欲というものではなく、「長男は家を継ぐものだから」という半ば何となく無意識にといった感覚でした。

そのまま自分の本当の意思を見出せないまま高校生活を送り、農業大学校への進学を決めました。農業大学校に入学してようやく自分の意識の無さを痛感しました。「実家の母豚飼養規模はどのくらいなのかな?」、「増頭は今後どのような計画で進めるのかな?」、「F1は購入しているの?それとも自家育成?」、周囲の友人たちが何気なく問いかけてくるそれらの質問や単語のほとんどが自分にはほとんど分からなかったのです。今後の就農のどこか、自分の家のことすらよく知らず、知ろうともせずに就農の一步手前の段階まで来てしまったのだと自分の不甲斐なさに気付きました。

「今から経営について学んでも、もう遅い」、そう感じた自分は、農業大学校で可能な限りの知識を詰め込むことと、就農に向けた体力作りに専念、また、先生方の勧めで茨城県つくば市にある全農飼料畜産中央研究所で研修をしてきました。その後、実家が所属する養豚グループ内の農場にお世話になり、現場実践の経験を積むことができました。

それから就農し、現在に至るまでの約1年間、父と共に養豚を営んでいます。未だこれまでの経験を十分に生かしきれていません。しかし、今はもう一昔前と違い、無意識に過ごさず、日々、試行錯誤しながらも飼養管理と経営成績の向上を目指して努力しています。現状に甘えなくなったり、自分を甘やかす気持ちを断ち切ったりしながら頑張っています。

これからも父と、そして、どこまでも見守ってくれている地域の養豚の先輩たちや仲間、多くの関係機関の方たちとともに、常に意識を持って、結果と向上を追い求めていきたいと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

村上市：(有)マスエイ農産 高橋 一栄

親の代から養豚を初めて40年余り、当初は少ない規模からの出発でしたが、現在は母豚125頭の一貫経営を行っています。

本年度は、これまでの安全安心な県産豚肉の提供に加えて、地域の特徴ある豚肉生産を旨とし、豚の成育体系に基づいた飼料を基礎に、後半は麦と甘藷を加え、また、天然のミネラルをたっぷり含んだ地下水を不断給水して、じっくり育て上げています。

生産された豚肉は、柔らかく、サクサク感もあり、アクは出にくく、ジューシーな旨みのある肉に仕上がっています。

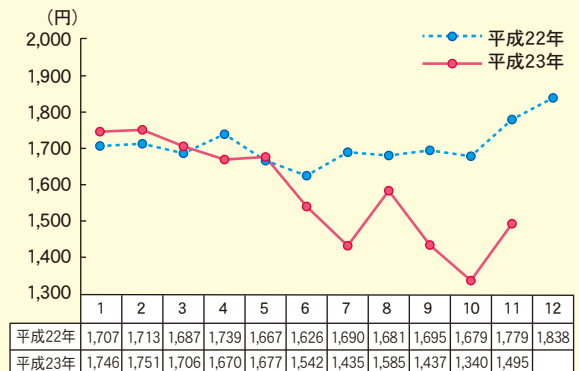
こういう努力と成果を踏まえて将来像を見通し、村上市内の8農場が協力して、今春から市内のスーパーで銘柄豚肉“村上あじわいポーク”として店頭販売を行っています。

今後は、従来からの「クリーンポーク」の認定を土台に、消費者に信用、信頼される地域の確立されたブランド豚肉の生産農場として、大事な動物蛋白源を提供していきたいと思っています。

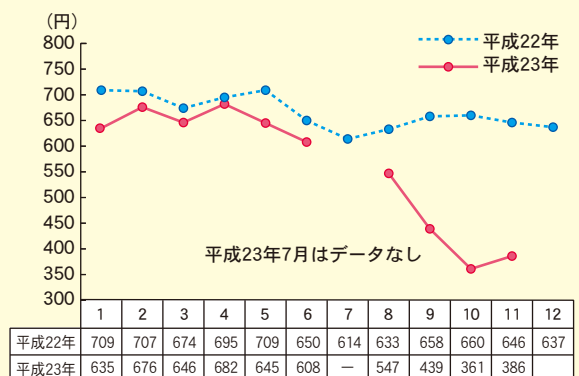


畜産物市況

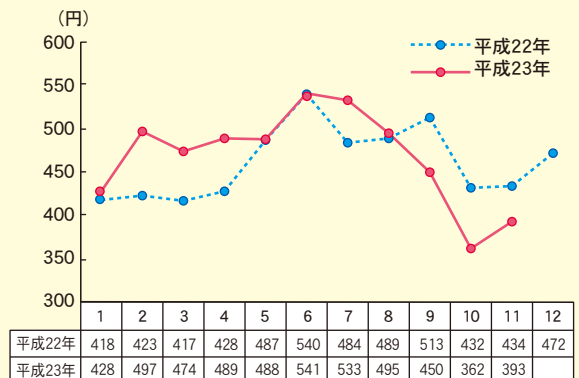
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

新潟県による牛枝肉の放射性セシウム全頭検査が機能して、にいがた和牛等の出荷が徐々に軌道に乗りはじめ、東京都も中央卸売市場食肉市場での全頭検査を開始予定等、検査体制が整備されてきています。しかし、牛枝肉価格はまだ低迷が続いており、今回は肉用牛肥育経営緊急支援事業の進捗状況を始め、危機的状況にある肉用牛経営の安定的継続のための取組を特集しました。

当協会は、経営支援対策、価格安定対策及び技術指導対策を推進し、また、畜産経営の土台となる家畜衛生関連事業等に取り組むとともに、「にいがた和牛IN東京キャンペーン」のような消費拡大対策も担当しています。

今後も畜産を取り巻く情勢は、BSEに係る輸入牛肉の規制見直しが俎上に載せられ、さらにTPP問題と続いていきます。こんな時こそ、当協会あげた多角的な取組で、安全・安心な畜産物の安定的提供に努めてまいります。経営相談窓口のご利用もお待ちしております。

(鍋谷 記)